

AGURI UCHIDA INCARNATED PAINTINGS INSELBERG

内田あぐり——化身、あるいは残丘

2019.5.20〔月〕－6.16〔日〕 武蔵野美術大学美術館 展示室3・4、アトリウム2

休館日：日曜日 ※6.16〔日〕は特別開館 開館時間：10:00－18:00（土曜日、特別開館日は17:00閉館） 入館料：無料

主催：武蔵野美術大学 美術館・図書館 協力：武蔵野美術大学 日本画学科研究室

Musashino Art University Museum & Library 〒187-8505 東京都小平市小川町1-736 tel:042-342-6003 <https://mauml.musabi.ac.jp>

MAUM&L

AGURI UCHIDA INCARNATED PAINTING AS INSELBERG

内田あぐり——化身、あるいは残丘

現代日本画を代表する作家のひとりである内田あぐり（1949年-）は、身体をテーマに圧倒的な世界観を放つ作品を描き、新たな日本画の可能性を示してきました。本展では、新作を含めた近年の代表的な大型の日本画作品を中心に、美術館の3つの展示空間を活かしながら、内田あぐり作品における絵画表現の本質とその魅力を紹介します。展示室全体を圧倒する挑戦的な近年の大型作品を展開する一方で、情念を発する初期の濃密な具象作品を対置することで、ダイナミックで緊張感ある作品空間を作り出します。また初期1970年代から現在に至るまで絵画表現の原質を示すようなドローイングの数々も展示し、その筆致から内田作品の全容を概観します。展示する1990年代後半以降の圧倒的な存在感を感じさせる大型作品は、絵画表現のなかで身体解体と再構築を繰り返すことで、その周囲を漂う気配や情念などの感覚的なもの、または空間や時間など人の存在を認識させている概念的なものを、挑発的に作品に取り入れます。今回発表する新作は、これまで積層されてきた内田あぐりの絵画考による化身として、平原にその姿を現した一つの残丘ともよべる作品となります。

【関連イベント】

講演会「残丘をめぐる。」

日時：5月20日（月）16:30-18:00

出演：水沢勉氏（神奈川県立近代美術館館長）

× 小金沢智氏（太田市美術館・図書館学芸員）

× 内田あぐり

ギャラリートーク①

日時：6月3日（月）16:30-17:30

出演：小金沢智氏×内田あぐり

ギャラリートーク②

日時：6月16日（日）14:00-15:00

出演：内田あぐり（聞き手：本展担当者）

※内容など詳細が決まり次第、当館webサイトにてお知らせいたします。

【同時開催展覧会】

武蔵野美術大学90周年記念

「清水多嘉示資料展—石膏原型の全てと戦後資料（第III期）」

5月20日（月）- 6月16日（日）

武蔵野美術大学 美術館・図書館

〒187-8505 東京都小平市小川町1-736

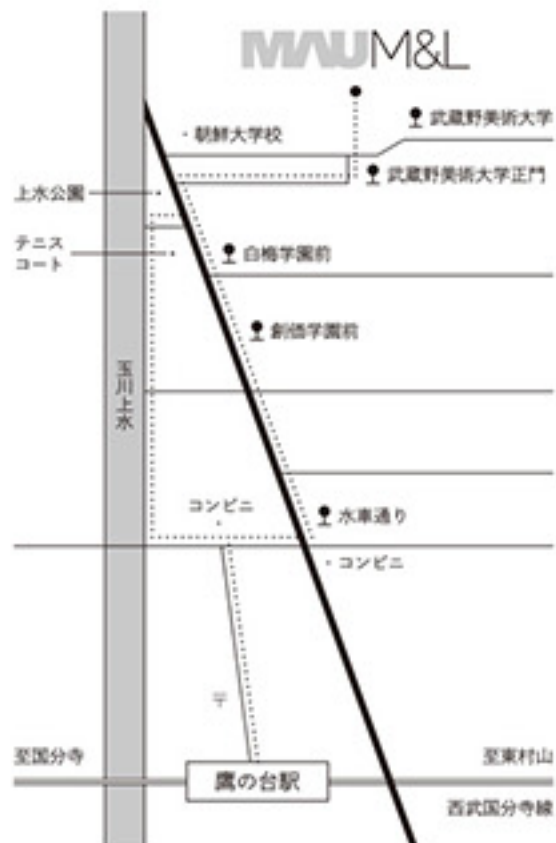
tel: 042-342-6003

mail: m-l@musabi.ac.jp

https://mauml.musabi.ac.jp

交通アクセス

- ・西武国分寺線「鷹の台」駅下車、徒歩18分
 - ・国分寺駅北口徒歩3分、西武バス「武蔵野美術大学」行きまたは「小平営業所」行きに乗り、「武蔵野美術大学正門」下車（バス所要時間 約20分）
 - ・立川駅北口（5番乗り場）より立川バス「武蔵野美術大学」行きに乗り、「武蔵野美術大学」下車（バス所要時間 約25分）
- ※お車でのご来館はご遠慮ください。



1

《女人群図—II》

1975/207.0×289.0cm
岩絵具、墨、膠／雲肌麻紙

2

《吊された男 #99A》

1999/240.0×360.0cm
岩絵具、墨、膠、布、紙綾／
韓国楮紙、シナベニヤ

3

《吊された男 #00M》

2000/240.0×600.0cm
岩絵具、墨、膠、布、紙綾／
韓国楮紙、シナベニヤ

4

《私の前にいる、目を閉じている》

2007/240.0×240.0cm
岩絵具、墨、膠、楮紙、布、紙綾／
雲肌麻紙
平塚市美術館寄託

5

《消光 #12h》

2012/220.0×360.0cm
岩絵具、墨、膠、紙綾／雲肌麻紙



1



2



3



4



5